

「第8回オープン！子ども・家庭大臣室 in 東京女子医科大学」

- ・日時 平成20年2月21日(木) 14:30～16:40
- ・場所 東京女子医科大学(新宿区河田町)
- ・出席者
 - 【東京女子医科大学】 吉岡 博光 理事長
永井 厚志 病院長
大澤真木子 小児科学主任教授 他
 - 【内閣府】 上川 陽子 内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)
板東 久美子 男女共同参画局長 他

■懇談の概要

東京女子医科大学担当者から、学校の概要や女性医師再教育センター、女性医学研究者支援について説明を受けたあと、懇談に入りました。



あいさつをする上川大臣

(上川大臣より)

- ・ 東京女子医科大学の創立の理念や現在のプロジェクトを伺い、大変大事な取組をされてこられたことに敬意を表します。

- ・ 女子医科大学だからできる取組、しなければいけない取組があるのではないかと感じています。
- ・ 病院の現場では、女性医師の働き方に合っている診療科、難しい診療科があると思いますが、卒業生のライフサイクルに応じた支援がどのように行われているのでしょうか。キャリア継続のために医局でどう取り組まれているのか、特に、産科、小児科の取組を教えてくださいたいと思います。

(大学より)

- ・ 日本小児科学会において、80 大学を対象に、女性医師の就業状況に関するアンケートを実施しました。大学卒業後の就業状況に関する設問では、94.8%が就業していると回答しています。その勤務形態は具体的にはわかりませんが、勤務が週4日以下の方に勤務形態を尋ねたところ、そのうちの約半数の方がパートとして勤務している、との回答でした。さらにその人たちに対し、勤務条件を整えばフルタイムで働く希望があるか尋ねたところ、半数近い方たちが希望ありと回答し、その勤務条件として、「当直なし」や「病（後）児保育」、「知識の再研修機会」などを挙げる人が多くおりました。
- ・ 当大学の小児科では、子どもがいる場合は9時－17時勤務とし、当直回数を減らすことで女性医師に配慮しています。
- ・ 当大学は、育児休業等とは関係なく、休職が3年間認められております。退職せずに職をつなげておけるため、復職しやすい状況にあり、退職する人は少ないです。
- ・ 当大学の卒業生の就業の状況ですが、40代前後で若干就業率に落ち込みが見られますが、各年代とも8割以上の方が就業しています。勤務形態として常勤か非常勤かはわかりませんが、非常勤の方が増えていると思います。
卒業生の就職科目としては、内科系が多くなっています。
- ・ 平成17年4月からこれまで、当大学では86名の方が産前産後休暇を取得し、そのうちの62名が育児休業を取得しております。育児休業取得期間は、10ヶ月取得された方が最も多い状況です。
- ・ 新生児科当直は、以前当直2名だったが、医師不足のため現在は当直1名となっています。

(板東局長より)

- ・ 女性医師再教育センターで研修を受けられた方の再就職の仕組みについて教えてください。

(大学より)

- ・ 再就職の状況は様々です。以前勤めていたところに頼んで再就職した人や研修で受け入れてもらった病院に再就職した人もいます。自分で条件に合う勤務先

を探して再就職しているようです。女性医師再教育センターでは再就職先は紹介しておりませんが、女性医師バンクはお勧めしています。



懇談の様子

(上川大臣より)

- 昔の学生と今の学生を比べて、キャリアへの考え方などは違いますでしょうか。できるだけ客観的なお話をお願いします。
また、学生に合った教育プログラムを開発されたりしているのでしょうか。

(大学より)

- 今の学生は、高度なことが求められるようになっており、教えなければならないことが複雑になったと感じています。教育は、ニーズに基づいて構築されますが、まずコミュニケーション能力が求められています。臨床では、今の学生の方が優れていると思います。
また、卒業の段階で教育を評価しようということをやっています。チュートリアル教育を受けた学生は、他の医師と気楽に話ができるという結果が出ています。今必要とされていることを目標として、卒業の段階で評価することを考えています。

(板東局長より)

- 女性医師再教育センターの今後の予定として、柔軟な勤務形態の採用を啓発するというお話でしたが、具体的にはどのようなことをお考えでしょうか。

(大学より)

- ・ 赤十字病院や済生会病院と連携して女性医師再教育の取組を行うに当たり、求められていることを討議する場を作りました。それで、他の病院に呼びかけたり、シンポジウムを開いて取組を浸透させたりすることを考えています。また、各地での講演で、女性医師の再教育にどういうことが求められているかわかれば協力すると伝えています。

(上川大臣より)

- ・ 東京女子医科大学には、女性医師の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をわかりやすい形で発信していただきたいと思ひますし、女性医学研究者の研究の成果にも大いに期待しております。
また、産科、小児科の医師不足という課題にも御協力をお願いいたします。

■病児保育室(かとれあ)・院内保育室視察



病児保育室(かとれあ)視察の様子



院内保育室視察の様子

■大臣からのメッセージ ～東京女子医科大学の視察を終えて～

今回は、東京女子医科大学の女性医師再教育センターと女性医学研究者支援に関する取組を中心に話を伺い、病児保育室と院内保育室を視察させていただきました。

東京女子医科大学が、医師としてキャリアを積み上げていく過程で、様々な理由によりキャリアを中断せざるを得なかった女性医師の支援に前向きに取り組んでいることを大変心強く思いました。また、保育などについて、一人ひとりの状況に応じたきめ細かい対応や環境づくりをされており、素晴らしいと思いました。是非ともこの取組を継続していただきたいと思えます。

女性医師は、一旦医療の現場を離れると、復職が難しい状況にあります。医師不足が社会的な問題となっている中で、東京女子医科大学の取組を参考に、関係機関と連携しながら、施策を推進してまいりたいと思えます。

最後に、今回この貴重な機会を提供してくださった吉岡理事長をはじめとする東京女子医科大学の理事、職員みなさまに心から感謝申し上げます。

(以 上)